

豊明市行政評価制度「事務事業」評価票

一般事務事業
 経常事務事業
 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連

有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ケーブルテレビによる医療制度の広報事業								
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	保険年金課	係	年金医療係	評価票作成者	医療担当係長	神谷 則子
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮せるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	福祉医療	コード	2 3 1	
	項	社会保障			単位施策(中)	医療制度の周知	コード	2 3 1 3	
					単位施策(小)	医療制度の周知	コード	2 3 1 3 1	
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	高齢者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	高齢者に複雑な老人保健医療制度をパンフレット等で職員が口頭説明しても、なかなか理解が得られないため、ケーブルテレビの映像による制度紹介を行ってより理解を得られるようにする。受給者は説明会の会場へ向くこともなく、自宅に居ながら気楽に制度について知ることができる。テープに収録すれば理解できるまで何度でも見ることができる。				
1-5 事務事業の内容	老人保健医療制度はたびたび改正され、改正前の制度が定着しない状況で、より専門的・複雑な制度に変わってきている。この複雑な制度を理解してもらうために、ケーブルテレビを利用した制度紹介番組を放映し、制度の理解を促す。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	今年度は行ってない。	制度の内容が一般的な高齢者では理解できないような専門的用語が用いられ、複雑である。	制度について分りやすい説明、分りやすいパンフレット・資料を要望している。		
平成19年度	後期高齢者医療制度について、情報ボックスの特集として放映することができた。同時に広報・とよあけまつりでPRすることができたので、関心は高まったのではないかと。	制度が複雑であり、専門的な用語を用いるため、職員ががみ砕いて説明しても理解を得られない場合が多い。	"			
平成20年度						
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	ケーブルテレビでの放映回数(回)	12(回)	12(回)	地域の老人クラブ等の会合時に、ビデオ等の映像による制度の説明を、月に1回程度実施することを目指して目標値を設定。制度の周知の状況を表す指標。算出式=月1回程度実施	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(回)	0	1								
直接事業費 b(千円)	0	0									
人件費 c(千円)	0	26									
合計コスト d(b+c)(千円)	0	26									
単位コスト d/a(千円)	当たり	1回当たり	26当たり	当たり							

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 人件費: 8h × @3,200 × 1人 = 26千円 * 直接事業費については人事秘書課広報担当経費にて負担

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	0(回)	1								
	後期目標値に対する達成度(%)	0(%)	8.3								

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価			B								

- 4段階評価結果
- | | | |
|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する | 判断の基準 | 必要性(必要な事務事業であるか) |
| B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要 | | 公共性(公が実施する意味があるか) |
| C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要 | | 妥当性(ニーズに対して投入が適正か) |
| D : 事務事業の廃止が相当 | | 効率性(結果に至る活動に無駄はないか) |
| | | 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか) |
| | | 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか) |

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
3-2 評価の内容	平成18年度	複雑な制度に加えて、制度がたびたび改正されるため、制度の説明会や紹介等を実施しても理解されにくい。	20年度に実施される新たな後期高齢者医療制度について受給者向け制度紹介の内容等の検討を行う。	事業を実施することができなかった。
	平成19年度	文字より映像で表現するほうが理解され易いと思われるが、受ける側が高齢者であることに問題がある。高齢者がどこまで物事の理解ができるかを把握したうえで事に当たらなければいけないのではないか。	ポイントを絞って放映する内容を検討する等、少しでも理解を得られるようにきめ細かく繰り返し同じ内容で放映することを心掛ける。	伝えなければならない点をどうしたら理解してもらえるかを考え、シナリオを作ったが視聴した人の反応は、期待するほどのものではなかった。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
4-1 総合評価の結果	平成18年度	-	
	平成19年度	B	有効な手法を工夫しながら今後も進めていくこと。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
平成27年度			